2．課題の整理

国土のグランドデザイン 2050（平成 26 年 7 月国土交通省）や愛知の都市づくりビジョン（平成 29 年 3 月愛知県）等を参考に、これらからの都市づくりにおいて重要と考えられる 5 つの視点「(1)都市構造」、「(2)都市活力」、「(3)都市生活」、「(4)都市環境」、「(5)都市運営」を「SWOT 分析※」における外的要因（機会(O)、脅威(T)）として設定します。

その上で、小牧市民憲章に掲げる理想のまちの実現に向けて、これら外的要因ごとに、「第 1 章 現況特性の整理」より明らかとなった小牧市の強み(Ｓ)、弱み(W)（内的要因）を把握することで、今後の小牧市における都市づくり上の課題を抽出・整理します。

※SWOT 分析：企業の戦略立案を行う際で使われる主要な分析手法で、組織の外的環境に潜む機会（O＝opportunities）、脅威（T＝threats）を検討・考慮したうえで、その組織が持つ強み（S＝strengths）と弱み（W＝weaknesses）を確認・評価すること

ＳＷＯＴ概念図

（１）都市構造の視点 －コンパクト＋ネットワーク－

＜強み＞

○市街化区域の人口は増加し、平成 27 年の人口密度が 47.8 人/ha と人口集中地区の人口密度の基準である 40 人／ha を上回っており、市街化区域への人口集積が進んでいます。特に桃花台ニュータウンや小牧駅周辺等において高い人口集積がみられます。

○中心拠点では人口集積が進んでおり、近年は高層マンションの立地や若い世代が定着する傾向がみられます。

○市街化区域内には、商業、医療、福祉など、市民の日常生活を支える都市機能が広く分布しており、市街化区域の大半はこれら都市機能の徒歩圏内に含まれています。

○本市を南北に通るに名鉄小牧線は名古屋市営地下鉄上飯田線と相互直通運転が行われ、また名古屋都心部とを結ぶ近距離高速バスや中央道高速バスも運行されており、鉄道・高速バスにより名古屋市内への公共交通ネットワークが形成されています。

○市のこまき巡回バスや民間事業者の路線バスなどにより、市全体を概ねカバーするバス路線が設定・運行されています。

＜弱み＞

●昭和 45 年以降、一貫して増加傾向にあった人口は平成 17 年以降横ばいで推移しており、今後、本市の人口は減少を続けることが見込まれます。

●都市的低・未利用地は減少傾向にあるものの、市街化区域の一部ではその割合が高い地区がみられます。

●小牧駅西側の商店街を中心としたエリアにおいて空き店舗、空き家、駐車場の分布が多くみられ、中心拠点の空洞化や商店街の衰退傾向がみられます。

＜課題＞

[強みを伸ばす]

・市街化区域における人口密度の維持、上昇を図ることが必要です。特に、小牧駅周辺では、引き続き若い世代の定住を促進するとともに、公共交通による利便性の高い名鉄小牧線沿線では、より一層人口の集積を高めていくことが必要です。また、桃花台ニュータウンでは、整った都市基盤施設を活用して居住を維持・誘導していくことが必要です。

・市街地内における人口定着に向け、広く分布する市民の日常生活を支える都市機能を今後とも維持・充実させていくことが必要です。

・鉄道駅やバス停を中心に、日常的な生活圏がコンパクトにまとまり、車に過度に依存しなくても暮らしやすい都市構造へ転換していくことが必要です。

[弱みを克服する]

・今後の人口減少傾向を緩やかにすることができるよう、現在の市街化区域を基本に、さらなる定住促進を図るとともに、都市的低・未利用地の活用等により居住の受け皿の確保を図ることが必要です。

・中心拠点では、既存ストックの改善や土地・建物の有効・高度利用を促進し、多様な交流を生み出す都市機能や生活中心地にふさわしい都市機能等の集積を高め、本市の「顔」として賑わいの創出・活性化を図ることが必要です。

（２）都市活力の視点 – 産業振興・交流拡大 –

＜強み＞

○5 歳階級ごとの人口増減をみると 20 歳代男性の転入が顕著にみられ、製造業を中心とした就業の場の充実がその背景になっていると考えられます。

○工業（製造業）について周辺都市と比較すると、事業所数は一宮市、春日井市に次いで多く、従業者数及び製造品出荷額等は周辺都市の中で最も高く、工業都市としての特徴を示しています。

○人口 1 人当たりの小売業の年間販売額が、愛知県平均、周辺都市を上回っており、周辺都市から本市へ購買力が流入する状況にあることがうかがえます。

○都市計画道路の整備率（概成含む）は、自動車専用道路、区画道路及び歩行者専用道路を除く幹線道路で約 9 割となっており、幹線道路によるネットワークが形成されています。

○都市間交通をはじめ広域的な交通需要に対応する国道 41 号、国道 155 号が東西方向、南北方向に通っており、交通の要衝となっています。

○広域的な交通利便性が高い国道 41 号沿道及びその西側の地区に工業系建物や運輸倉庫等の流通業務系建築物の集積が進んでいます。

○市街化調整区域のうち、市域東部及び西部の工業系市街地に隣接する地区では、広範囲に渡って工業系建物が集積しています。

○春日井市、名古屋市、一宮市、犬山市、江南市等の周辺市から小牧市への通勤流入が多く、小牧市からの流出を大幅に上回る流入超過となっており、小牧市が周辺市町の就業の場となっています。

○小牧山や市民四季の森をはじめ、市内外から多くの人が訪れる観光資源が中心拠点や市の東部を中心に分布しています。

＜弱み＞

●卸売業及び小売業ともに、事業所数、従業者数は減少傾向にあり、年間商品販売額も平成 26 年に減少に転じています。

●商業地域や近隣商業地域で住宅率が高い地区が多く、商業系用途地域において商業集積が進んでいません。

●工業系用途地域内には、田・畑・山林・その他の空地等の都市的低・未利用地が残されています。

●準工業地域の土地利用は、市域西部では住宅の混在が顕著にみられ、国道 41 号沿道や市道北外山文津線沿道では商業系の混在がみられます。

●中心拠点において事業所及び従業者数は減少傾向にあります。

＜課題＞

[強みを伸ばす]

・東名・名神高速道路、中央自動車道、名古屋高速、国道 41 号及び国道 155 号をはじめ優れた広域交通体系による利便性を活かし、より一層工業・物流機能の集積を高めていくことが必要です。

・充実した就業の場を背景とする若い世代の転入を今後も維持していくため、雇用の場をより一層確保していくことが必要です。

・既存の観光資源や広域交通体系へのアクセス利便性等を活かして、中心拠点や市の東部を中心に交流人口の拡大を図ることが必要です。

・移動や産業活動の円滑化、生産力の拡大に向け、都市の骨格を形成する幹線道路網の整備・充実を図っていくことが必要です。

[弱みを克服する]

・工業系用途地域内に残る都市的低・未利用地の活用や土地利用の適正な誘導等により、今後の産業立地の受け皿の確保を図ることが必要です。

・工業等と住宅の混在がみられる準工業地域では、居住環境と操業環境双方の悪化を防止することが必要です。

・中心拠点等において、商業業務機能をはじめとする第３次産業の集積を高めていくことが必要です。

（３）都市生活の視点 －コミュニティ活性化・安全安心－

＜強み＞

○市街化区域内には、商業、医療、福祉など、市民の日常生活を支える都市機能が広く分布しており、市街化区域の大半はこれら都市機能の徒歩圏内に含まれています。

○市街化区域面積の約 4 割で 5ha 以上の面的な市街地整備が実施されており、市街化区域内において計画的な市街地が形成されています。

○都市公園は地域ごとに偏りの少ない配置となっており、児童遊園や小牧山を含めた整備水準は全国平均と同程度となっています。

＜弱み＞

●本市の高齢化率は 23.5%と、愛知県平均、全国平均を下回るものの、高齢化率の上昇が顕著な状況にあります。特に市内の東部や西部の市街化調整区域の集落地で高齢化率 50%以上の地区がみられます。

●名鉄小牧線各駅周辺の既成市街地、本庄周辺、桃花台ニュータウン、藤島団地などで高齢者数が増加しています。
●市街化区域の約６割では面的な市街地整備が実施されておらず、都市基盤施設が不十分な市街地が残されています。
●丘陵地が広がる市域北東部や市街化区域の一部で土砂災害、市域南部の一部で浸水の危険性がある区域が分布しています。
●大規模な地震が発生した場合、液状化の発生する可能性が高い箇所が市域南西部等に分布しています。
●中心拠点内の建物は新耐震以前の建物が約４割と市街化区域の中でも多い傾向にあります。
●空き家数は増加傾向にあり、これまでの傾向から今後も増加する可能性があります。

＜課題＞

[強みを伸ばす]

・日常生活に必要なサービスが身近に確保された暮らしやすさを今後とも維持するため、広く分布する市民の日常生活を支える都市機能を今後とも維持・充実させていくことが必要です。
・計画的な市街地形成が図られた地区を中心に、整った都市基盤施設等を活用しながら、良好な居住環境を創出していくことが必要です。

[弱みを克服する]

・高齢化が進み地域活力の低下がみられる集落地や住宅団地等において、日常生活に必要な機能や居住の受け皿の確保、交流・地域活動を促進する場の形成等により、地域コミュニティの再生・活性化を図ることが必要です。
・車を運転できない高齢者でも容易に都市機能にアクセスできるような公共交通網の維持・効率化が必要です。
・市街化区域に残る未整備市街地の改善等により、都市の防災性を強化していくとともに、空き家の発生抑制や適切な管理の促進により良好な居住環境を創出していくことが必要です。
・土砂災害や浸水等の自然災害の危険性の高い区域において、防災・減災対策の実施や開発抑制を進めることが必要です。
・中心拠点をはじめ市内に広く残る老朽建物のほか、多くの市民が利用する公共施設やインフラ施設等の耐震化を進めることが必要です。

（４）都市環境の視点 －環境負荷低減・自然保全－

＜強み＞

○公共交通の利用者数は、一部のバス路線を除き鉄道、バスともに増加傾向にあります。
○都市公園は地域ごとに偏りの少ない配置となっており、児童遊園や小牧山を含めた整備水準は全国平均と同程度となっています。
○小牧山が本市のシンボルとなっているほか、市内には有形・無形の文化財をはじめとする歴史文化的資源が分布しています。

＜弱み＞

●代表交通手段は自動車の割合が増加を続けており、周辺市と比較しても割合が高い傾向にあります。

●農地及び森林は宅地の増加に伴い減少傾向にあります。

●生産緑地地区は、当初指定が行われた平成 4 年以降減少傾向となっています。

＜課題＞

[強みを伸ばす]

・CO2 排出量の抑制といった環境負荷低減の観点からも利便性の高い公共交通網の維持・効率化が必要です。

・身近な公園や緑地を活用し、良好な居住環境を創出していくことが必要です。

・本市のシンボルとなる小牧山や歴史文化的資源等と調和した都市景観の誘導が必要です。

[弱みを克服する]

・市街地を取り巻く農地や森林の保全や活用を図ることが必要です。

・市街化区域内に残る農地について、維持・保全や活用等の今後のあり方を明確にしていくことが必要です。

（５）都市運営の視点 －ストック活用・担い手づくり－

＜強み＞

○本市の財政力指数は、平成 23 年以降、常に 1 を上回っており、安定した財政力が確保されています。

○製造品出荷額等は周辺都市の中で最も高く、工場等の立地需要の高さがうかがえます。

＜弱み＞

●社会保障費等の扶助費が過去 10 年間で約 2.2 倍と増加しており、今後高齢者の増加に伴ってさらに増加すると考えられます。

●本市が保有する公共建築物にかかる建替え・大規模改修の費用により財政負担が増大していくものと予測されます。

＜課題＞

[強みを伸ばす]

・鉄道駅やバス停を中心に、日常的な生活圏がコンパクトにまとまり、車に過度に依存しなくても暮らしやすい都市構造へ転換していくことが必要です。（再掲）

・安定した財政力、高い工場等の立地ニーズを背景に、さらなる産業立地を促進することで将来にわたって安定的な財政収入を確保し続けていくことが必要です。

[弱みを克服する]

・今後の財政見通し等を踏まえ、効率的で効果的な都市づくりを進めることが必要です。

・将来の厳しい行財政状況を見据え、インフラ施設の維持管理等に対する住民や民間事業者等の協働化を促進していくことが必要です。

・老朽化するインフラ施設に対し、効率的な修繕・更新の実施、長寿命化による更新コストの削減を図ることが必要です。